

脳障害の記載なし

東京女子医大

開示された平柳さんのレセプト

改ざん記録と整合性図る？

東京女子医大病院の心臓手術ミス・隠ぺい事件で、担当医の瀬尾和宏容疑者(46)が、人工心肺装置の操作ミスによる脳障害やその治療についてレセプト(診療報酬明細書)

に記載していなかったことが分かった。改ざんした看護記録などの整合性を図ったとみられる。レセプトはB5判6枚。群馬県高崎市の平柳明香さん(当時12歳)が

手術を受けて死亡した昨年3月分で、父利明さん(51)が開示請求した。投与薬品などを記した明細書のほか、瀬尾容疑者の署名でワープロ打ちした別紙の「症状詳記」があ

った。別紙では、手術から死亡までの明香さんの容体や治療経過を説明しているが、人工心肺装置の異常に関する記述はなく、脳障害が起きたことや、その治療に行った「クレンジング」(低体温療法)にも触れていなかった。利明さんは「私たちが(裁判の準備のためレセプトを)開示請求すると思

い、つじつまを合わせたいのではないか。ここまではやるのかと腹立たしい」と話している。レセプトは、病院が診療報酬を請求するため、患者が加入している健康保険組合などに提出し、本人や遺族は市町村や各健康保険組合に開示請求できる。明香さんのケースでは、レセプトに基づき高崎市から約270万円が病院に支払われている。【医療問題取材班】

女子医大小児心臓手術事故

改竄・レセプト開示

2002年7月9日 毎日新聞